

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

早生タマネギにおけるべと病防除対策の徹底について

2月に入り、タマネギべと病の一次伝染株の発生が多い圃場が散見されています。今作は、暖冬によりタマネギの生育が進んでおり、特に早生タマネギではべと病の二次伝染時期が早まることが懸念されるため、発生圃場では緊急的な対応が必要です。

つきましては、下記を参考に生産者への指導の徹底をお願いします。

記

1. 発生概況と今後の発生予想

(1) 発生概況

平成31年2月5日に当センターにおいて、県内20圃場を調査した結果、一次伝染株の発生株率は0.0013%で平年および前年並であった。しかしながら、杵島農業改良普及センターが同日に行った調査では、調査した20圃場のうち早生タマネギの6圃場で一次伝染株の発生がみられ、中には発生株率が4%と非常に高い圃場が認められている(表1)。

表1 一次伝染株多発生圃場の概要

品種	マルチの有無	移植時期	昨年のべと病発生状況	夏作	一次伝染株の発生株率
スパート	有	11/下	有	ソルゴー	4%
レクスター	有	11/中	有	ソルゴー	0.5%

(2) 今後の発生予想

12月の降雨日数は多く、本病の一次伝染が助長されたと考えられる。また、気温は12月以降、平年に比べ高く推移しており(表2)、今後も同様の状態が続くと予想されている(2月7日福岡管区気象台発表の1ヵ月予報)

これらのことから、早生タマネギの一次伝染株の発生圃場では、べと病の二次伝染時期が早まることが考えられる。

表2 これまでの気象条件

年度	12月			1月			2月(6日まで)		
	平均気温	降水量	降雨日数 ^{※)}	平均気温	降水量	降雨日数 ^{※)}	平均気温	降水量	降雨日数 ^{※)}
	℃	mm		℃	mm		℃	mm	
30年度	9.2	89.5	20日	6.8	28.0	18日	9.1	32	5日
(平年比)	+1.7	188%		+1.4	49%		+3.6	327%	
平年	7.6	47.7	-	5.4	56.7	-	5.5	9.8	-

佐賀市の気象観測データによる

※降雨日数は、降水量が0.0mm以上の降雨があった日を計数

2. 防除対策

(1) 一次伝染株の抜取り徹底

圃場の見回りを行い、一次伝染株を見つけたら直ちに抜取り処分を徹底する。

(2) 薬剤防除の徹底

一次伝染株の発生が無い圃場

薬剤防除は二次伝染が始まる前の2月下旬から開始する。なお、防除体系(例)を図1に示すが、具体的な防除暦については各地域で作成されたものを参照する。

一次伝染株の発生がみられる圃場

早期から二次伝染が起こる可能性があるため、2月中旬から防除を開始する(図1)。

早生圃場共通

マンゼブ剤(ジマンダイセン水和剤)を核とした防除を4月中旬まで継続する。なお、鱗茎肥大期のタマネギは本病にかかりやすいため、重点防除期間である3月上旬から4月上旬までは、散布間隔は7日間を基本として防除を徹底するが、散布予定日以降に降雨がなければ散布間隔を10日まで延長できる。

(3) 排水対策の徹底

圃場内に雨水が停滞すると、本病が発生しやすくなるので、溝切り等の排水対策を徹底する。

(4) 中晩生タマネギでの防除対策

中晩生タマネギでの防除対策については、引き続き一次伝染株の抜取りを行うとともに、薬剤防除体系を当初の計画どおりに実施する。

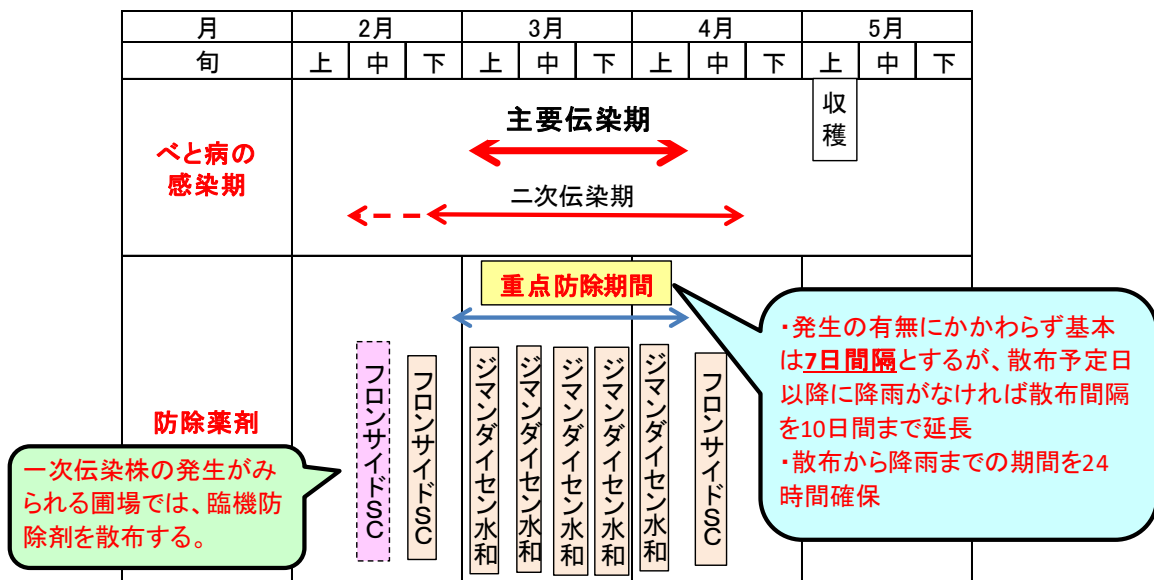


図1 早生タマネギにおけるべと病の発生と本病を主体とした防除体系(例)
(無マルチ栽培、定植日11月中・下旬、収穫日5月5~10日を想定)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5042